

沼タイズ2023 沼を認識すると人は表現者になる みんなでつくろう！～沼の民俗音楽会



実施者:沼タイズ制作実行委員会

社会や地域の課題

比企丘陵には、300以上の沼があり、天水のみを使った農業（谷津沼農業）が1000年以上前から行われていた。谷津沼は生物多様性文化の宝庫であり、沼の畔に住む家族、子供の憩いの場所で地域の人々の生活に深く関連した文化環境が培われてきた。しかし、その継承には問題が伴っている。

取組概要及び成果

沼に対するネガティブなイメージや沼の存在に対する関心の希薄さにアプローチするため、地域で谷津沼農業を継承しながら沼の文化を自由に創造、発信する地元アーティストや谷津沼に対する先入観やネガティブな意識の低い海外アーティスト等に課題のある地域に一定期間滞在してもらい、谷津沼の魅力の色濃く体験する沼の民俗音楽ワークショップと音楽会を開催した。

滞在中につながりができた滑川町の文化財保護委員会、福田獅子舞保存会、近隣の保育園、児童福祉施設からヒアリングした沼のイメージから発想を得て完成した音楽を比企郡民や県民、東京都民を対象に鑑賞してもらった。

会場を含めた参加型の即興ダンスや音楽遊び、雨乞いの香り等を通し、多様な沼の有り様を体験できるよう構成、演出した。

ワークショップ参加者や鑑賞者には、音楽会やワークショップを介して他者の感性や思い出、エピソードに触れることで、文化芸術の視点を通して沼の魅力を再発見する機会を得ることができた。これにより、沼に対してポジティブな発想から多様な関わり方を考える機会を創出できた。